

<b>講義名</b>	研究演習
<b>講義コード</b>	14044
<b>担当教員</b>	栗田 真樹
<b>開講期・曜日・時限</b>	通年 月曜日 4時限
<b>備考</b>	

## ゼミ

3. 学部ゼミ・学科ゼミ

## 学部

7. 人間社会学部

## 学科

人間社会学科 観光学科

## 演習名

栗田真樹ゼミナール（現代社会学・サービス産業の社会学）

## 概要説明

テーマ：「現代社会における人々の意識とサービス産業」とくに、観光と生活文化に関する人々の意識と産業  
「現代社会学演習」には、次の三つの特徴があるでしょう。

「現代社会」を取り扱う現代社会は、産業社会、消費社会、情報社会、福祉社会、少子高齢社会、余暇社会など、さまざまに表現されます。これらの「社会」の「」の部分は、現代の特徴をあらわしています。本演習では、これらの社会の特徴である言葉をキーワードとして、「現代社会」の特徴を明らかにしていきます。社会全体の特徴を捉えようとすると姿勢・視点が必要になるでしょう。うえの「社会」の「」の部分、産業、消費、情報、福祉、少子高齢、余暇など（その他も含めて）が研究テーマとなります。このテーマは各自の興味関心で決めてもらって構いません。なお、担当者は産業社会、消費社会、地域社会、情報社会、サービス社会などに興味関心があります。

人々の「意識」、サービス産業に焦点をあわせる我々人間は何かを考えて「行動」をすと考えられます。結果としての「行動」、さらにはそれが集まってできる「社会」を説明する、あるいは将来を予測するためには、まず人が何を考えているかという「意識」から捉えていこうと考えるわけです。「意識」が変われば「行動」も変わり、ひいては「社会」全体が変わるかもしれません。ただし、個人の心理だけではなく、「人と人とのつながり」、「社会とのつながり」といった「社会意識」を取り扱うので、心理学とは少し異なります。しいて言うなら「社会心理学」の領域に近いでしょう。具体的な領域として、受講者自身の興味関心があるサービス産業の領域を対象とします。

「実証的」な研究(社会調査)の方法をとる内容分析、フィールドワーク、質問紙調査法など、実際に本当かどうか確かめるといふ「実証的」な研究(社会調査)の方法をとります。自分自身でデータを集め、それを分析することによって、卒業研究を行なってもらいます。既存の文献の単なる切り貼りでは卒業研究とは認めません。

その他、注意しておいて欲しいこと・正規の授業時間外にコンピュータ実習、調査実習、フィールドワーク、演習合宿に切る場合があります。これらの活動については、授業の一環なので参加してもらいます（もちろん日程は調整します）。・できる限り社会連携プログラムに参加したいと考えていますので、正規の時間外の活動にも積極的に参加するようにしてください。・実証的な研究で必要となるコンピュータの技法は演習内で指導しますので選考時には必要はありません。また、自分でパソコンを所有している必要もありません。しかし、将来のこととも考えれば、スマートフォンだけでなくパソコン（ワープロ、表計算、電子メール、ウェブ閲覧・作成）の操作能力があり、パソコンを所有していることが望ましいと考えます。

## 学位

修士（社会学）

## 教員よりの要望

よく学び遊ぶが、面白い考え方、何か一つのものに打ち込んでいる、世の中の役に立ちたいと考えている、2年半で何かをやり遂げたい、などの希望を持った人の所属を希望します。授業の単なる一科目ではなく、演習所属の皆さんと担当者の私が一緒にあって、何かおもしろい成果を出せればと考えます。自らすすんで勉強しようとしなない受け身の人は、どうかご遠慮ください。

その他、今回演習を選択する皆さん、全員に言いたい事は、「自分に合った演習を見つけてください」ということです。そのためには、数多くの演習説明会、ガイダンスに参加することが必要でしょう。現在まで、勉強してきた人もそうでない人も、研究演習での勉強で「少しでも自分を変えよう・変わろう」と思わないのであれば、大学に来た意味はないかもしれません。

「大学で学んだことは、何の役に立たない」と言う人がいます。そう言う人は「大学での学修を役に立てられなかった人」です。受動的ではなくて能動的・積極的に「大学で学んだことを、何に役立てられるか、どう役立てられるか」が、これからの人生においては重要です。それを考える契機としてください。

## 教員英字氏名

Kurita Maki

## 研究室

研究棟 5428研究室

## 最終学歴

関西学院大学大学院社会学研究科博士課程後期課程単位取得退学

## 主な研究活動・社会活動・研究業績

『大学生のための社会学入門 日本学術会議参照基準対応』篠原清夫・栗田真樹編著、晃洋書房、2016年7月。  
「新しい文化サービス産業の『聖地』としての地域ブランド」（田中道雄・白石善章・酒田恵三編『地域ブランド論』同文館、2012年6月。）  
「フランスの生活文化サービス産業 -マンガ文化産業の流通を中心として」（田中道雄・白石善章・相原修・河野三郎編著 佐々木保幸・三浦敬・小林正美・大木真恵・山下春・瀬藤浩彦・李為・栗田真樹著『フランスの流通・都市・文化 グローバル化する流通事情』中央経済社 2010年7月。）  
『現代中国の流通と社会』（田中道雄・鄭杭生・栗田真樹・李強編著、ミネルヴァ書房、2005年11月。）  
『現代フランスの流通と社会』（白石善章・田中道雄・栗田真樹編著、ミネルヴァ書房、2003年6月。）  
「消費の社会的価値」（白石善章・田中道雄編『現代日本の流通と社会』pp.253-263、ミネルヴァ書房、2004年1月。）  
「もの見方の多様性」（岡本栄一、澤田清方編著『社会福祉への招待』pp.192-206、ミネルヴァ書房、2003年6月。）

専門社会調査士（登録番号:490）  
兵庫県少子化検討委員(1993)など。

## 主な卒業論文のタイトル

「人気カフェの構造について -スターバックスとドトールの比較-」  
「ファストファッションの現状と課題」  
「これからのコンテンツ・ツーリズムのあり方に関する研究 -涼宮ハルヒシリーズの舞台を題材として-」  
「ジャンプで考える理想のスタイル」  
「バス乗降の現状と今後の展望について-遠足は帰るときまで速足-」  
「大のテーマパーク新提案」  
「F U J I R O C K F E S T I V A L -日本最大級のロックフェスが伝える環境問題」  
「『産業廃棄物とわたし』-資源循環型社会に向けて-」  
「現代社会における児童虐待の現状とその対策」  
「個人のプライバシーと人権に関する研究 -winny問題を中心として-」  
「在宅生活における困難緩和」  
「福祉イベントで地域福祉を考える」  
「祭り社会に与える影響について」  
「住みよい街をつくるには -ユニバーサルデザインの街づくり-」

## 趣味・特技

趣味は、スポーツ、散歩、音楽、映画、読書、マンガ・アニメ、写真、ビデオ、パソコン、旅行、ドライブ、お笑い、古着・帽子収集、ファッション誌の購読（かつ講読）など、たくさんあります。なかでも、スポーツは「見る」のも「する」のも好きです。また、コンピュータで音楽や映像を処理したりして遊ぶのも好きです。かつては3ケタの体重があったのですが、「レコーディングダイエット」でダイエットに成功。スイーツは食べ過ぎないように注意しています。

## 所属

人間社会学部人間社会学科（サービス産業学部サービスマネジメント学科）

## 所属学会

日本社会学会 関西社会学会 日本社会心理学会 日本応用心理学会 情報通信学会 日本広告学会 日本世論調査協会 日仏経営学会 日本行動計量学会 実践経営学会

## 専門分野

社会学 社会調査法 現代社会論

## 選考方法

提出された書類と面接で選考します。面接は個別ガイダンス時のことではなく、申し込み書類提出後にもう一度確認のためにお会いしたいと考えています。必ず連絡先（メールアドレス、携帯電話番号等）を記入しておいてください。単位修得状況も参考資料にします（成績の良し悪しだけでは決めません）。面接では研究したいテーマ、将来の進路希望について詳しく聞きたいと考えています。

なお、志望者が定員をオーバーした場合、勉強する意欲のある人、積極的に就職活動をする気のある人、卒業研究まで履修する気のある人、「社会調査士」資格取得を目指している人、を優先的に受け入れます。また、志望者が定員を下回っても、研究したいテーマが演習のテーマと外れていたり、勉強に関する意欲がみられなかったり、書類をきちんと書いていなかったり、面接を受けなかったりしたような場合には、演習の所属をお断りすることがあります。

## 担当科目

社会学、社会学概論、社会調査の基礎（社会調査論） 社会調査演習I・II 産業社会学（生活文化事業概論） 基礎統計学、専門基礎演習、アミューズメント事業論

## 備考

先輩ゼミ生からの声（一部コメントを再構成しています）：  
「自分の不向きな仕事」なんかない。努力をするか、しないか。心の底から笑って、どんな時でも笑顔で俳優になりましょう。」

## 評価方法

演習は累積的に行うので毎回出席を前提とします。クラブ活動や就職活動を理由とした欠席は必ず連絡してください。病気等で欠席も無断欠席は禁止です。後になっても良いので、必ず連絡してもらいます。学生は社会人になるための準備期間です。また学生である以上、授業とその他の活動は「両立させること」が基本と考えます。もちろん「両立できる」ようにできる限り支援します。要は、自覚と責任をもって行動できるようになってほしいと言うことです。成績は、出席状況、課題提出、演習での活動（プレゼン、討論、フィールドワークへの参加等）を総合して、評価します。